

ホームクラブ
フロアブル剤専用
蓄圧式噴霧機 MODEL: F-1
取扱説明書

ASB 株式会社 麻場
 〒381-8530 長野県長野市北長池1443-2
 ☎026(244)1317(代)
 URL: http://www.asaba-mfg.co.jp

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書には、安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり、正しくご使用ください。お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。

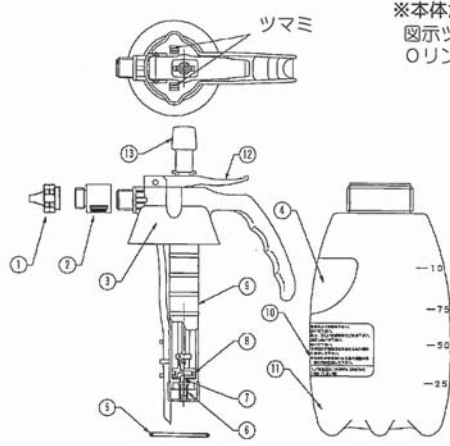
本書に記載した▲の表示のある注意事項や、機械に貼られた▲の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり、必ずお守りください。また、▲の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、必ず所定の位置にお貼りください。

▲安全のために必ずお守りください

作業の前に	薬液の取り扱い
<ul style="list-style-type: none"> 作業前に各ネジ部にゆるみがないこと、タンクに亀裂、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。 安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。 噴霧機を持ち運ぶ際は、必ずレバーがロックされていることを確認してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 調合が適切でない薬液は、作物を傷つけるだけでなく、人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。 安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬液は使用しないでください。 農薬は必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器と一緒に保管しないでください。 誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。 農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、棄めーカの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は、薬害のない方法で処分してください。
作業中	
<ul style="list-style-type: none"> 水道、河川、池、沼などを汚染しないよう、また、身体や散布対象物以外のものにかからないよう、風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。 作業中、作業後にめまいや頭痛を生じたり、気分が少しでも悪くなった時は、直ちに医師の診察を受けてください。 加圧した状態で、長時間放置しないでください。 作業中にノズル部を清掃する時は、顔面等に薬液がかかる恐れがありますので、必ずレバーをロック状態にしてから行ってください。 	
作業後と保管	
<ul style="list-style-type: none"> 余った薬液及び、噴霧機の洗浄水は、河川、水源地、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。 使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しのよい、子供の手の届かない場所に保管してください。 前回使用した薬液が、タンク、ノズル等の内部に残っていると、薬害を起こす危険性があります。使用後は残っている薬液を充分に洗い流してください。 	

※本体からシリンダを取り外す方法
 図示ツマミを内側につまみ、シリンダを引き抜きます。
 Oリング⑩の交換時は、全面に注油して組み付けてください。

分解図



記号	名称
①	フロアブルノズルチップ
②	異径金具G1/4×M16 パッキン付き
③	本体
④	ネームシール
⑤	Oリング 43.6×3.3
⑥	エア流入スプリング
⑦	エア流入弁
⑧	Oリング P-15
⑨	シリンダ
⑩	注意表示ラベル
⑪	タンク
⑫	レバー
⑬	ピストンロッド

※注意表示ラベルが見づらくなったり、はげたりした場合は、必ず新品と交換してください。

仕様	型式	本体寸法	最大液容量	適性加圧回数(1.0ℓ時)	主要部材質
	フロアブル剤専用 F-1	273×110mm (高さ×タンク直径)	1.0ℓ	約30回	タンク：高密度ポリエチレン その他：ポリプロピレン、黄銅

性能	薬液到達距離：10m (薬液1ℓで30回加圧時)	吐出量：25ml/秒 (薬液1ℓで30回加圧時)
----	--------------------------	--------------------------

※注) 到達距離と吐出量は、加圧回数と作業時の環境により変化します。 680002550-2008.08

使用方法

①レバーのロック、解除の仕方
 ピストンロッドが「ロック解除」の位置で、噴霧及び、タンクへの加圧ができます。
 「ロック解除」の位置から、ピストンロッドをレバーロック方向に回転させ、「ロック」の位置にするとレバーがロックされ、噴霧及び加圧はできなくなります。
 ▲※加圧時、又は、噴霧時以外は、レバーをA：停止位置でロックの状態にしておいてください。

②薬液の入れ方
 1. 本体を回してタンクを取り外します。
 2. 薬液を原液のままタンクに入れます。
 3. 本体を回してタンクに取り付けます。
 ▲※薬液は他の容器で調合してください。
 ▲※薬液は最大目盛り(1.0ℓ)以上入れないでください。

③加圧します
 ピストンを上下させ加圧します。
 ▲※適正な加圧回数
 ●1.0ℓ・・・約30回
 ●0.5ℓ・・・約80回

④噴霧します
 レバーの操作
 ・Aの位置が停止です。
 ・Bの位置にすると噴霧し、レバーを放すとAの位置に戻り、噴霧は停止します。(断続噴霧)
 また、Bの位置でピストンロッドを回し、レバーをロック状態にすると連続して噴霧します。(連続噴霧)

▲※レバーを吐出の状態にするときは、周囲の状況を充分に確認してください。作業中以外はレバーを停止の状態にしてください。
 ▲※必要以上に加圧しないでください。また、加圧した状態で、長時間放置しないでください。

手入れと保管

①作業が終わったら
 タンク内を充分に洗浄し、更に、清水を入れ、1分間以上噴霧し、タンク内の水を払ってください。
 ▲※余った薬液及び、機械の洗浄水は、河川、水源地、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
 ▲※前回使用したフロアブル剤が、タンク、ノズル等の内部に残っていると、薬液が固着して噴霧できなくなります。使用後は必ず、タンク、ノズル等の内部に残っている薬液を、充分に洗い流してください。

②保管
 屋内の直射日光が当たらず風通しのよい、子供の手の届かない場所に保管してください。
 ▲※プラスチック部品は、直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下することがあります。また、注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなったりしますので、保管には充分注意してください。
 ▲※薬液タンクは、紫外線により劣化が進みますので、使用開始後4年をめぐりに新品と交換してください。

フロアブル剤の具体的散布例

①10a (30m×33m) の水田に、500mlの水田用初期除草剤 (フロアブル剤) を散布する場合、1秒間散布で20箇所散布となります。4畦畔(あぜ)で歩く距離は、126mですから、20回散布するには、6.3m(7~8歩)間隔に1回、1秒間散布してください。

②20a (30m×67m) の水田に、1ℓの水田用初期除草剤 (フロアブル剤) を散布する場合、1秒間散布で40箇所散布となります。4畦畔(あぜ)で歩く距離は、194mですから、40回散布するには、5m(4~5歩)間隔に1回、1秒間散布してください。

※無風状態での薬剤散布到達距離は約10mです。水田用初期除草剤 (フロアブル剤) は、有効成分が散布されない部分にも拡散しますので幅30~35m程度の水田であれば、畦畔(あぜ)からの散布で、充分な除草効果が発揮されます。
 ※薬剤の散布量は、薬剤メーカーによって異なります。薬剤の取扱説明書をよくお読みください。

故障と修理方法

内容	原因	処置
ピストンロッドの動きが悪い、操作が重い、又は、押し戻される	●ピストンOリング⑧の油切れ ●エア流入弁⑦のゴミ詰まり、又は、劣化	○ピストンOリング⑧に少量注油する ○掃除する、又は、新品と交換する
圧力が上がらない、又は、空気の漏れる音がする	●タンクのネジ部より空気が漏れる ●Oリング⑩の欠落	○タンクと本体を締め付ける ○本体側に組み付ける
液の出が悪い、又は、噴霧状態が悪い	●加圧不足 ●ネジ部より空気が漏れる ●フロアブルノズルチップ①のゴミ詰まり	○加圧する ○各ネジ部を締め付ける ○掃除する

▲修理を行う場合は、タンク内の圧力を抜いてください。また、フロアブルノズルチップの掃除を行う際は、顔面に薬液がかかる恐れがありますので、必ずレバーをA：停止位置でロックの状態にしてから行ってください。

※Oリングを交換する際は、必ずOリング全面に注油してください。注油には、エンジン油、又は、ギア油を使用してください。上記処置を行っても直らない場合、又は、上記以外の症状の場合は販売店にご相談ください。